

也、此御申文可被進歟、近年神祇伯被出件申文之條、只近年也、親王無御座之時、尤此分也、幸可被進御申文之條、叶本儀歟、此事内々、昨日申談執權按察殿了、又局務清少納言等所談合也、所詮可被任御意歟之由、親王御方申入了、○中略晚參按察殿有御對面、自李部親王被申、王氏爵御申文事、近年神祇伯資益王被出之、は無親王御座之時儀也、第一親王可被出事本儀也、但任近例可被略歟、就興行可被獻歟、可被計申之由仰之、都護卿被仰云、此事近代之伯獻之者略儀也、復舊規可有御申之條、道之再興目出之由可申云々、御體可爲何樣哉、被仰之間、予兼草案一通懷之、取出奉見了、名字益久王之書樣、如此之由申之、近代不加封、只重裏紙卷之由申之、十二日丁亥、王氏御申文、予令清書内々以折紙付女中令申御署了、即有御署被返下了、兩通今夜付進局務了、王氏、

無位益久王寛和御後

右朔旦冬至爵所請如件

寶徳元年十二月十二日

二品行式部卿貞常親王

源氏長者

〔貞丈雜記官位〕一源氏長者と云は、源氏の内にて官位高き人を源氏長者と云、源氏のみに限らず、藤原にも橘にも平にも、官位高き人を何氏の長者と云也、是も天子より御免ある也、

〔西宮記臨時〕定源氏爵人事

不給親王源氏王卿中、以觸弘仁御後之人給宣旨、重明親王、參議等○人名例也、

〔玉勝間十一〕源氏長者

西宮記に、定源氏爵事、王卿中、以觸弘仁御後人爲長者、重明親王參議等是也、彼時有上臈源氏公卿と見えたり、等卿はもとより弘仁の御後なるを、重明親王は延喜醜の御子におはすれども、御母ぞ融大臣の御孫、昇大納言の御女におはしければ、これ弘仁の御後に觸たるなり、

〔職原抄下〕源氏長者 爲獎學院別當之人、即爲長者、而近例爲前大臣有爲長者之人、○源定實仍被下宣